

# MR ワクチン未接種児へのフォローアップに関する陳情

文京区議会議長  
白石 英行 様

提出年月日 2017年5月19日

陳情者

〒160-0023

新宿区西新宿3-2-7 KDX新宿ビル4階

東京保険医協会

会長 鶴田 幸男

TEL 03-5339-3601 FAX 03-5339-3449

日頃より区政運営にご尽力いただいていることに敬意を表します。

私たちは東京都内に開業・勤務する5,500人の医師でつくる団体です。

文京区が現在、麻しん・風しん混合ワクチンの未接種児に対して実施している任意接種助成制度に関して、下記の内容を要望いたします。

## 陳情事項

1. 文京区が実施している麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）任意接種費用の助成制度について、下記のとおり取り扱い見直しを求めます。

	改正案	現行
対象者	<u>2歳から20歳未満で、定期接種が未接種（ただし定期接種対象者を除く）、かつ麻しんまたは風しんにかかったことのない文京区民の方</u>	①MR 1期接種もれ：満24か月以上、MR 2期接種期間初日の前日まで ②MR 2期接種もれ：MR 2期接種期間最終日の翌日から12歳となる日の属する年度の末日まで ③MR 2回目接種もれ：13歳となる日の属する年度の初日から20歳の誕生日の前日まで
助成回数	<u>未接種回数分（最大2回）</u>	期間ごと、対象となる方に1回



また、同様に③「小学校1年の時点で1期接種漏れが発覚した子」も、②の対象者が2期漏れに限定されているため、1期漏れは助成対象外ということになります。

文京区には③の期間があるため、中学1年生まで待てば追加の助成を受けることができますが、わざわざそこまで待つ状況は現実的ではありません。また、③の期間に1度も接種していない子が出てきた場合、その子は1回分しか助成が受けられず、2回目(④-B)は自己負担となります。

このたび協会が行った調査で、MRワクチン任意接種助成制度は区によって取り扱いが異なること(資料2)、文京区の手配が他区に比べて条件の厳しい傾向にあることが判明しました(資料3-1、3-2)。

目黒区、千代田区、新宿区、2017年度から足立区・板橋区を含む16区については、「対象年齢かつ定期接種対象外で未接種だった場合、未接種回数分(最大2回)を助成する」としています。小学校1年で1度も接種していなかった場合は2回、2期は打ったが1期を打っていなかった場合は1回、特に制限なく助成を受けることができます。

貴区の手配は、過去の3期・4期対策を念頭につくられたのではないかと推察しますが、年齢区分のあり方について、適切な見直しが行われているのでしょうか。

#### ■麻しん・風しん対策強化に向けて、現行制度の拡充を

文京区の2015年度MRワクチン定期接種率は1期101.7%(都平均97.3%、全国平均96.2%)、2期92.0%(都平均89.8%、全国平均92.9%)でした(資料4)。特に1期は「未接種者0人」であり、貴区の日頃からの積極的な接種勧奨の取り組みに敬意を表します。

とりわけ昨今の文京区は人気エリアであり人口流動も激しく、2歳以降の転入者から1期未接種の子どもが出ないとも限りません。

昨年関西空港や首都圏を中心に流行した麻しんは、今年に入っても三重県や山形県で集団感染の報告が相次ぎました。風しんは5～7年が流行周期といわれ、東京オリンピック・パラリンピックの2020年に流行する可能性も予想されます(前回流行は2013年頃)(資料5、6)。今後、東京オリンピックに向けて、海外からさらに多くの人々が来訪すれば、麻しん・風しんなどの感染のリスクが高まることでしょう。

今こそ、麻しん・風しん対策を強化すべきではないでしょうか。

文京区よりも厳しい制限があった足立区では、区議会で検討の結果、2017年度から制度を大幅に拡充させました(資料7)。仮に文京区で同様に手配を変更したとしても、貴区における現時点の対象者はほぼ0であり、特段の予算措置は必要ありません。任意接種予診票の手配が簡素化されれば、医療機関、医師会、区の実務も省力化できる可能性もあります。

ぜひ文京区でも、対象者区分を撤廃し、すべての子どもたちが最大2回の接種機会を確保できる制度へと変更いただくことを希望します。

子どもたちの命と健康を守る取り組みとして、ご検討の程、よろしくお願ひ申し上げます。

以上

## 東京保険医協会

### 「MRワクチン未接種児へのフォローアップに関する陳情」関連資料

---

- 資料1** 平成28年度 麻しん・風しん予防接種事業 実施状況（区市町村別）（9月末時点実績）  
（平成28年度 第2回東京都麻しん・風しん対策会議資料（平成29年1月31日）より）  
..... p. 1
- 資料2-3** 東京保険医協会調べ  
「MRワクチン未接種者に対する任意助成制度の状況（23区・2016年度）」..... p. 2～4
- 資料4** 2015年度 23区におけるMRワクチン接種率・未接種者数（第1期・第2期）  
..... p. 5
- 資料5** 国立感染症研究所 感染症発生動向調査（IDWR）より／麻しん・風しん累積報告数の推移  
2011～2017年 ..... p. 6
- 資料6** 山形県の麻疹感染、新たに三重県でも患者（日経メディカル 2017年3月22日）... p. 7～8
- 資料7** 『東京保険医新聞』2017年3月25日号 ..... p. 9  
「MRワクチン任意接種助成 足立区・板橋区が拡充・新設 協会の働きかけ実を結ぶ」

# 資料 1

平成28年度 麻しん・風しん予防接種事業 実施状況（区市町村別）（9月末時点実績）

今回要望している  
接種漏れ児対策の  
任意接種制度を  
利用した人

文京区は  
9月までの半期で  
51人が利用

大人の風しん対策

	区市町村名	都補助事業対象		区市町村 独自事業
		機会逸失者	先天性風しん 症候群対策	
1	千代田区	15	36	-
2	中央区	15	94	73
3	港区	-	55	-
4	新宿区	46	79	29
5	文京区	51	130	43
6	台東区	1	77	-
7	墨田区	1	160	90
8	江東区	90	395	-
9	品川区	61	200	65
10	目黒区	74	232	63
11	大田区	134	408	-
12	世田谷区	105	455	-
13	渋谷区	36	171	-
14	中野区	36	209	68
15	杉並区	67	397	50
16	豊島区	34	144	50
17	北区	41	108	-
18	荒川区	40	79	42
19	板橋区	-	245	-
20	練馬区	145	237	※
21	足立区	46	183	-
22	葛飾区	97	180	-
23	江戸川区	120	121	-
24	八王子市	152	101	-
25	立川市	-	52	-
26	武蔵野市	26	51	-
27	三鷹市	52	99	-
28	青梅市	-	32	-
29	府中市	29	49	-
30	昭島市	-	36	-
31	調布市	69	161	-
32	町田市	151	155	-
33	小金井市	4	54	-
34	小平市	-	70	-
35	日野市	81	52	-
36	東村山市	-	76	-
37	国分寺市	-	60	-
38	国立市	-	44	-
39	福生市	-	17	-
40	狛江市	-	28	-
41	東大和市	4	14	-
42	清瀬市	-	10	-
43	東久留米市	-	44	-
44	武蔵村山市	-	46	-
45	多摩市	-	55	-
46	稲城市	-	26	-
47	羽村市	-	11	-
48	あきる野市	-	13	-
49	西東京市	20	84	-
50	瑞穂町	5	10	-
51	日の出町	-	3	-
52	檜原村	-	0	-
53	奥多摩町	-	0	-
54	大島町	-	2	-
55	利島村	-	0	-
56	新島村	-	0	-
57	神津島村	-	0	-
58	三宅村	-	0	-
59	御蔵島村	-	0	-
60	八丈町	-	1	-
61	青ヶ島村	-	0	0
62	小笠原村	-	0	-
	合 計	1,848	5,851	573

（注）「-」は事業未実施を示す。

※練馬区の独自事業分の実績は、区分整理中のため、先天性風しん症候群対策分に含めている。

【対象者】

- ・機会逸失者・・・やむを得ない事情により、法定接種を受けることができなかった、2歳以上18歳以下の者
- ・先天性風しん症候群対策・・・検査で接種が必要と認められた、19歳以上の妊娠を予定又は希望する女性

## MRワクチン未接種者向け《任意接種》費用助成制度の有無と概要(23区)

東京保険医協会調べ(2017年1月18日現在)

★…2016年度から新たな助成制度事業を開始した自治体

★…2017年度から新たな助成制度事業を開始・拡充した自治体

自治体名	制度	助成額	範囲	対象年齢(定期接種対象者を除く)					19歳			
				2歳	Ⅱ期対象前	小学1年	4年	6年		中学3年	高校3年	
千代田区	○	全額	区内のみ	①		②	②					
中央区	○	全額	区内のみ	①		②	②					
港区	×	—	—				助成制度なし					
新宿区	○	全額	区内のみ			①	①					
★ 文京区	○	全額	区内のみ	①	①	②	③	③				
★ 台東区	○	全額	区内のみ			①	①					
墨田区	○	全額	区内のみ			①	①					
江東区	○	全額	区内のみ	①		②						
★ 品川区	○	全額 (1回のみ)	区内のみ			①	①					
★ 目黒区	○	全額	区内のみ	①		②	②					
★ 大田区	○	全額	区内のみ			①	①					
★ 世田谷区	○	全額	区内のみ	①	①	②	②					
★ 渋谷区	○	全額	区内のみ			①	①					
中野区	○	全額	区内のみ	①	①	②	②					
杉並区	○	全額	区内のみ	①	①	②	②					
★ 豊島区	○	全額	区内のみ			①	①					
北区	○	全額	区内のみ			①	①					
荒川区	○	全額	区内のみ			①	①					
★ 板橋区	×	—	—				助成制度なし					
練馬区	○	全額	区内のみ	①		②	②					
★ 足立区	○	全額	区内のみ			①	①					
葛飾区	○	全額	区内のみ			①	①					
江戸川区	○	全額	区内のみ	①	①	②	②					

①2歳～幼稚園・保育園相当年齢以下  
②小学校1年生～高校3年生相当年齢以下

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳～Ⅱ期対象前(1回漏れのみカバ)③  
②小学1年～6年(2回漏れのみ)③④小学1年～19歳(2回目漏れ)

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳～5歳になった年の年度末  
②小学校1年～4年生①2歳～19歳未満で、定期接種を2回受けられなかった方  
(Ⅰ期漏れ、Ⅱ期漏れは問わないが、費用助成は1回のみ)①2歳～Ⅱ期対象前でⅠ期を接種していない方  
②H22.4.1生まれ～19歳で今まで一度も接種していないor2回目漏れの方

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳～Ⅱ期対象前(1回目漏れのみカバ)②  
②小学校1年生(2回目漏れのみカバ)

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳～Ⅱ期対象前(1回目漏れのみカバ)②  
②小学校1年生～中学3年生(2回目漏れのみカバ)①2歳～Ⅱ期対象前(1回目漏れのみカバ)②  
②小学校1年生～小学校6年生(2回目漏れのみカバ)

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

⇒ 2017.4～制度発足決定!  
①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者(ただし自己負担1回1,000円)①2歳から5歳まで  
②6歳から19歳未満まで①2歳～18歳で今まで1度も接種機会のない方  
⇒ 2017.4～制度拡充決定! 未接種回数(最大2回まで)助成

①2歳以上18歳以下の定期接種未接種者

①2歳～Ⅱ期対象前(1回目漏れのみカバ)②  
②小学校1年生～小学校6年生(2回目漏れのみカバ)

## 2016 年度・MRワクチン未接種者に対する任意助成制度の状況

東京保険医協会まとめ（2017 年 1 月 24 日現在）

※任意接種の助成対象年齢のうち、定期接種対象者は除く。

### A) 1 期漏れ、2 期漏れ、いずれにも対応し、期間内であれば最大 2 回まで補助

例えば対象年齢が 2 歳～18 歳の場合、15 歳の時点で 1 度も接種していないことが分かった場合でも 2 回分の費用は助成してもらえます。

「2 歳～18 歳まで」とまとめている自治体と、「2 歳～2 期接種前／小学校 1 年生～18 歳まで」など時期を分けている自治体があるが、全期間通じて 2 回の接種機会を確保する。

2 歳～19 歳	目黒区
2 歳～18 歳	千代田区、新宿区、台東区、墨田区、大田区、豊島区、北区、 荒川区、練馬区、葛飾区 (年度中 1 回のみ) 中央区、渋谷区
2 歳～小学 4 年	江東区

### B) 1 期漏れ、2 期漏れ、いずれにも対応するが、期間内はそれぞれ 1 回分の補助

あくまで各期の終了直後をフォローするものであり、**小学 1 年以降に 1 期接種漏れが発覚した場合は 1 期漏れ分の助成を受けられない。**

① 2 歳～2 期対象前、② 小学 1 年～6 年、③ 中学 1 年～19 歳	文京区 ※
① 2 歳～2 期対象前、② 小学 1 年～中学 3 年	中野区
① 2 歳～2 期対象前、② 小学 1 年～6 年	杉並区、江戸川区
① 2 歳～2 期対象前、② 小学 1 年のみ	世田谷区

※ 文京区は②で 2 回未接種だった場合、③の中学 1 年まで待てば 1 回追加接種が可能。

### C) 1 期漏れ、2 期漏れ、いずれにも対応するが、通算して 1 回分の補助

対象年齢であればいつ申請しても構わないが、費用は 1 回分しか出ない。

2 歳～18 歳 (全期間通じて 1 回)	品川区
-----------------------	-----

### D) 1 度も打ったことのない人に 1 回分を補助／2 期漏れは対応しない

1 度も打ったことがない人が対象。1 期は打ったが 2 期が漏れた人は対象にならない。

2 歳～18 歳 (全期間通じて 1 回)	足立区
-----------------------	-----

### E) 助成制度なし

助成制度なし	港区、板橋区
--------	--------

★ 2017 年度、足立区は拡充、板橋区は新設でいずれも **A** へ。ただし板橋区のみ自己負担あり ★

# 資料 3 - 2

	1 歳	2歳～ 2期接種前	小学校入学前年	小学校1年生～			
		1期を打ち漏れた子		①1期も2期も打っていない子		②1期は打ったが2期を打ち漏れた子	③2期は打ったが1期を打ち漏れた子
				1回目	2回目		
A) I期漏れ、II期漏れ、 いずれにも対応し、 期間内であれば最大 2回まで補助		○		○	○	○	○
B) <b>文京区</b> I期漏れ、II期漏れ、 いずれにも対応する が、期間内はそれぞ れ1回分の補助	1 期	○	2 期	○	×	○	×
C) I期漏れ、II期漏れ、 いずれにも対応する が、通算して1回分 の補助	定期接 種	○	定期接 種	○	×	○	○
D) 1度も打ったことの ない人のみ1回分を 補助		○		○	×	×	×
E) 助成制度なし		×		×	×	×	×

- A) 2歳～19歳 : 目黒区  
 2歳～18歳 : 千代田区、新宿区、台東区、墨田区、大田区、豊島区、北区、荒川区、練馬区、葛飾区、  
 (年度中1回のみ) 中央区、渋谷区  
 2歳～小学4年 : 江東区
- B) **①2歳～II期対象前、②小学1年～19歳 : 文京区**  
 ①2歳～II期対象前、②小学1年～中学3年 : 中野区  
 ①2歳～II期対象前、②小学1年～6年 : 杉並区、江戸川区  
 ①2歳～II期対象前、②小学1年のみ : 世田谷区
- C) 2歳～18歳 (全期間通じて1回) : 品川区
- D) 2歳～18歳 (全期間通じて1回) : 足立区 ⇒ 2017年度からAへ制度拡充!
- E) 港区、板橋区 ⇒ 板橋区は2017年度から導入決定! (A+自己負担1,000円)

## 2015年度 23区におけるMRワクチン接種率・未接種者数（第1期・第2期）

【第1期】

接種率 (%)			対象児 (人)	未接種者 (人)
1	中央区	108.1	1,635	0
2	千代田区	102.1	575	0
3	文京区	101.7	1,889	0
4	中野区	101.4	2,323	0
5	世田谷区	101.1	7,450	0
6	品川区	100.4	3,417	0
7	目黒区	100.3	2,286	0
8	墨田区	99.8	2,118	5
9	江東区	99.1	4,929	44
10	大田区	98.5	5,730	85
11	新宿区	98.0	2,354	48
	台東区	98.0	1,431	29
	渋谷区	98.0	1,854	37
	板橋区	98.0	4,485	90
15	杉並区	97.9	4,304	91
	練馬区	97.9	6,057	125
17	荒川区	97.4	1,832	47
<b>東京都</b>		<b>97.3</b>	<b>111,375</b>	<b>2,991</b>
18	北区	96.9	2,719	85
19	江戸川区	96.3	6,334	233
<b>全国</b>		<b>96.2</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
20	豊島区	95.3	1,932	91
21	足立区	94.3	5,568	316
	葛飾区	94.3	3,795	216
23	港区	83.6	2,859	469

【第2期】

接種率 (%)			対象児 (人)	未接種者 (人)
1	板橋区	99.1	3,996	34
2	千代田区	95.6	473	21
	中央区	95.6	1,184	52
4	中野区	94.2	1,818	105
5	墨田区	93.6	1,849	119
<b>全国</b>		<b>92.9</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
6	文京区	92.0	1,717	138
7	練馬区	91.8	5,782	472
8	江東区	91.5	4,428	375
9	目黒区	91.4	1,949	167
10	杉並区	90.9	3,741	339
11	北区	90.7	2,305	215
12	葛飾区	90.6	3,641	341
13	荒川区	90.4	1,629	156
14	品川区	90.2	2,851	279
15	台東区	90.1	1,071	106
16	大田区	89.8	5,319	545
<b>東京都</b>		<b>89.8</b>	<b>105,966</b>	<b>10,922</b>
17	足立区	88.2	5,619	661
18	新宿区	85.8	1,948	276
19	江戸川区	84.4	6,810	1,064
20	世田谷区	84.0	7,015	1,119
21	豊島区	83.2	1,617	271
22	渋谷区	82.3	1,458	258
23	港区	71.7	2,100	594

※ 2015年4月1日～2016年3月31日分（最終評価）

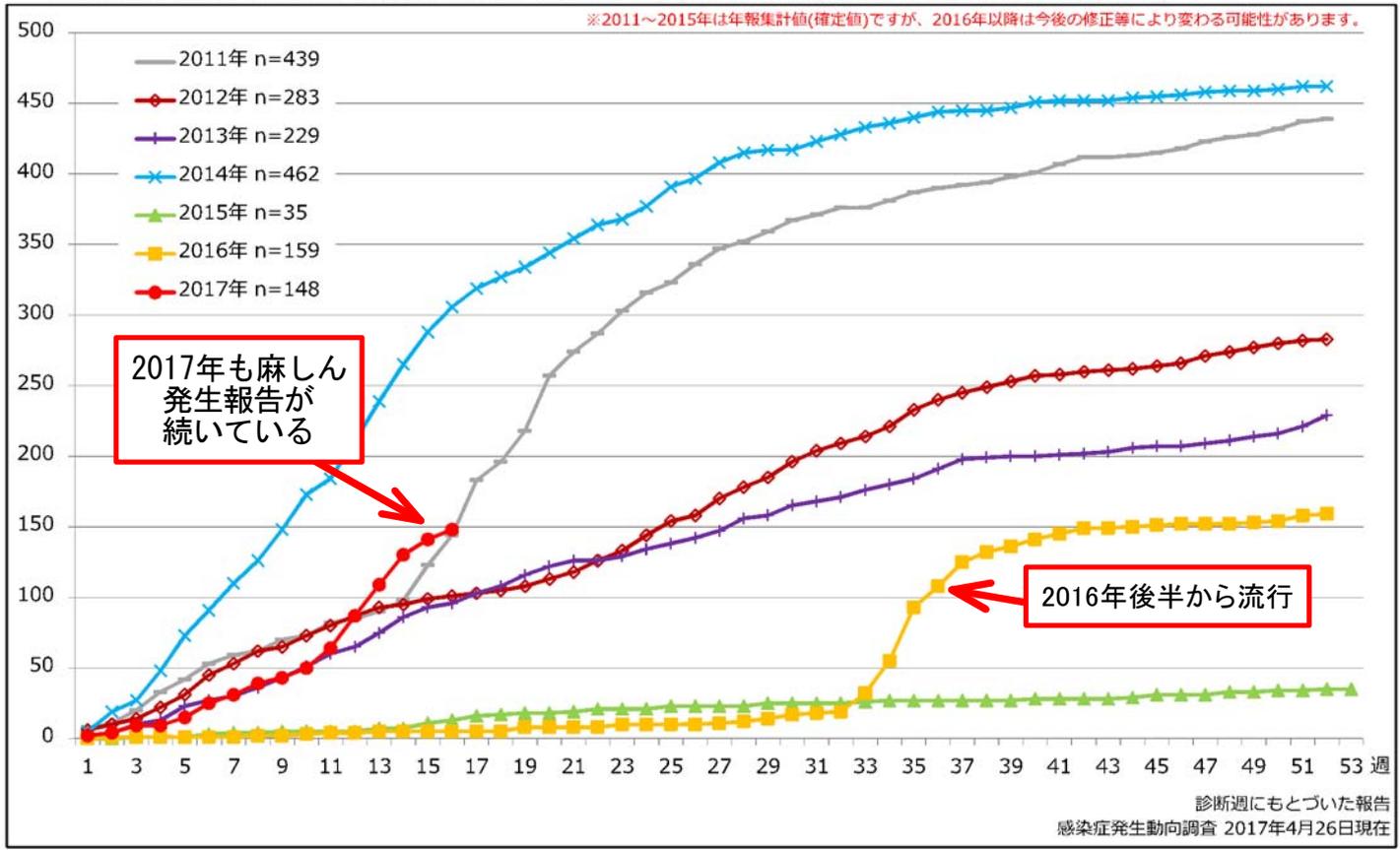
※ 厚生労働省「麻疹風しんワクチン接種率全国集計結果（最終評価）」（2016年9月23日発表）より協会作成。

※ 各接種率は、小数点第二位以下を四捨五入（MRワクチン接種者数 / 麻疹風しんワクチン接種対象者数）

# 資料 5

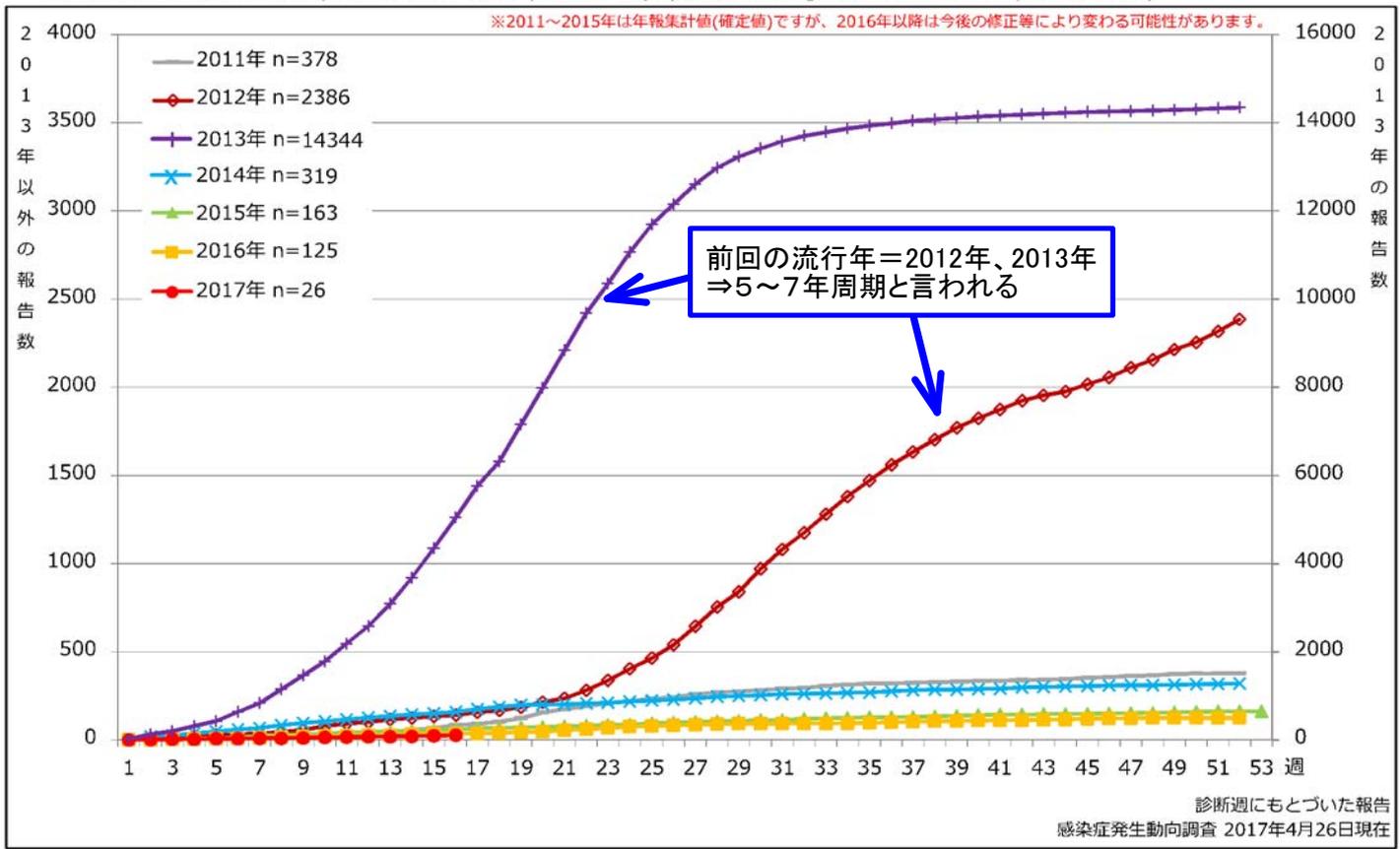
## 麻しん 累積報告数の推移 2011~2017年 (第1~16週)

Cumulative measles cases by week, 2011-2017 (week 1-16) (based on diagnosed week as of April 26, 2017)



## 風しん 累積報告数の推移 2011~2017年 (第1~16週)

Cumulative rubella cases by week, 2011-2017 (week 1-16) (based on diagnosed week as of April 26, 2017)



## パンデミックに挑む：トピックス

10歳代と20歳代がそれぞれ3人、40歳代が1人

## 山形県の麻疹感染が拡大、埼玉県や宮城県でも患者確認

2017/3/22

[三和護 = 編集委員](#)

バリから帰国した20歳代男性を発端とする麻疹感染が広がりを見せている。3月9日に初発例が確認されて以降、3月20日までに7例に増加した。患者が確認された地域も、山形県から埼玉県や宮城県に広がった。患者の中には、症状が出現する前に多数が集まる商業施設や公共交通機関を利用した人もおり、各自治体は感染が拡大する危険があるとして注意喚起を行っている。

山形県が集約している麻疹患者は3月20日までに7例となり、いずれも初発患者が通っていた山形県置賜地域の自動車教習所や宿泊施設での接点があった（表1参照）。患者背景を見ると、10歳代と20歳代がそれぞれ3人、40歳代が1人で、男性が5人、女性が2人となっている。症状が表れてから麻疹と確定するまでの日数は、初発例が6日と長かった以外は、1日から4日だった。

7例のうち、3例目は宮城県で、4例目は埼玉県で確認され、残り5例は山形県で確定した。表1の経過にあるように、3例目は3月15日の夕刻に、仙台駅周辺の商業施設を利用していたことが分かっている。また4例目には、3月16日夕方から17日夕方まで、山形県酒田市内での飲食及び公共交通機関の利用があったことが明らかになっている。

**表1 バリから帰国した20歳代男性を発端とする麻疹感染で確認された患者と経緯**

(山形県、宮城県などの情報を基に作成)

- ◆7例目：40歳代 男性 山形県長井市在住  
3月16日 発熱  
3月17日 発熱（38℃）で医療機関を受診  
3月19日 発疹  
3月20日 医療機関を受診。衛生研究所での検査の結果、麻疹と確定  
※初発例（バリ島から帰国した麻疹患者）が宿泊していた施設の従業員
  
- ◆6例目：10歳代 男性 山形県西置賜郡在住  
3月16日 発熱（39～40℃）、咽頭痛で医療機関を受診  
3月19日 発熱（38.1℃）、発疹

3月20日 医療機関を受診。衛生研究所で検査の結果、麻疹と確定  
※初発例（バリ島から帰国した麻疹患者）と同じ置賜地域の自動車教習所に通っていた

◆5例目：20歳代 男性 山形県東置賜郡在住

3月18日 発熱（40℃）があり医療機関を受診

3月19日 衛生研究所で検査の結果、麻疹と確定

※初発例（バリ島から帰国した麻疹患者）と同じ置賜地域の自動車教習所に通っていた

◆4例目：20歳代 女性 埼玉県草加保健所管内在住

3月17日 発熱（38.4℃）

3月18日 医療機関を受診

3月19日 埼玉県衛生研究所で検査の結果、麻疹と確定

※初発例（バリ島から帰国した麻疹患者）と同じ置賜地域の自動車教習所に通っていた

・埼玉県の草加保健所で患者調査を実施した結果、3月16日夕方から17日夕方まで、山形県酒田市内での飲食及び公共交通機関の利用があったことが明らかに。今後、感染が拡大する可能性があることから、広く情報提供が行われた。

利用した列車は以下の通り。

**3月16日 普通列車（米沢発－山形行き）赤湯駅15時47分発、山形駅16時17分着**

**3月17日 特急いなほ14号 13号車 酒田駅18時04分発、新潟駅20時07分着**

**3月17日 MAXとき348号 9号車 新潟駅20時20分発、大宮駅22時02分着**

◆3例目：10歳代 女性（宮城県発表）

3月2日 この日から、山形県置賜地方の自動車教習所に通う（この自動車教習所には初発例と2例目も通っていた）

3月15日 自動車教習所の送迎バスにより宮城県に帰県。**夕刻に、仙台駅周辺の商業施設を利用。**家族の送迎により自家用車で帰宅。その後、38℃以上の発熱が出現

3月16日 大崎市内の医療機関を受診。麻疹患者の届出があり大崎保健所で検査を実施

3月18日 検査の結果、麻疹と確定

◆2例目：10歳代 男性 山形県西置賜郡在住

3月15日 発熱（37.5℃）、頭痛

3月16日 発熱（38℃）、結膜充血、頭痛、関節痛

3月17日 医療機関を受診。衛生研究所で検査の結果、麻疹と確定

※初発例（バリ島から帰国した麻疹患者）と同じ置賜地域の自動車教習所を3月8日に卒業

◆1例目（初発例）：20歳代 男性 横浜市在住

2月26日 バリより帰国

3月2日 山形県に来県

3月3日 38℃以上の発熱及び発疹が出現

3月8日 置賜地方の医療機関を受診。医療機関から麻疹患者として届出

3月9日 検査の結果、麻疹と確定

今号の主な記事	主張 混合介護を考える	2面
	・支部地区だよ ・社保情報 国の指定難病 新規追加	3面
	メディカル eye 「抗血栓薬、勝手に止めると悔い残す！」	4面



(昭和41年5月10日第三種郵便物認可)  
発行所 東京保険医協会  
〒160-0023 新宿区西新宿3-2-7 KDX新宿ビル4階  
電話 (03)5339-3601 / FAX (03)5339-3449  
協会ホームページ http://www.hokeni.org  
月3日5・15・25日発行 1ヵ月900円  
発行人・小形 歩

【会員の購読料は、会費に含まれております】

## MRワクチン 任意接種助成

# 足立区・板橋区が拡充・新設

表1 23区におけるMRワクチン未接種児への任意接種助成制度の概要(2016年度)

子どもの年齢	1歳	2歳～ 2期接種前	小学校 入学前年	小学校1年生～			
				任意接種			
各自治体の 助成内容	定期・任意の別と 接種漏れケース	任意接種 1期を 打ち漏れた 子	定期接種	任意接種			
				①1期も2期も 打っていない子 1回目	②1期も2期も 打っていない子 2回目	③1期は打った が2期を 打ち漏れた子	④2期は打った が1期を 打ち漏れた子
A	未接種回数分(最大2 回まで)を補助	○	○	○	○	○	○
B	1期終了後、2期終了後、 それぞれ1回分を補助	○	○	×	○	○	×
C	1回分のみ補助	○	○	×	○	○	○
D	1度も打ったことのない 人のみ1回分補助 (足立区→制度拡充へ)	○	○	×	×	×	×
E	助成制度なし (板橋区→新設へ)	×	×	×	×	×	×

A) 目黒区/千代田区/新宿区/台東区/墨田区/大田区/豊島区  
北区/荒川区/練馬区/葛飾区/中央区/渋谷区/江東区  
B) 文京区/中野区/杉並区/江戸川区/世田谷区 C) 品川区  
D) 足立区(制度拡充→A) E) 港区/板橋区(2017年度導入へ)  
※各区の詳しい対象年齢、条件については協会ホームページ「資料室」参照

表2 足立区・MRワクチン任意接種助成制度の内容【拡充】

	変更後(2017年度)	現行
対象者	対象ワクチンを一度も接種していない又は一度しか接種したことがない者で、かつ麻しん又は風しんに罹患したことがない者	対象ワクチンを一度も接種していない、かつ麻しん又は風しんに罹患したことがない者
助成回数	対象ワクチンを一度も接種していない者には2回まで、一度しか接種したことがない者は1回まで	一人1回
年齢	2歳～高校3年生相当まで(2期接種期間を除く)(変更なし)	
接種費用	全額助成(変更なし)	
接種場所	足立区内の指定医療機関(変更なし)	
備考	事前に各保健センター等または保健予防課の窓口で、母子健康手帳持参のうえ、該当予防接種の予診票の交付を受ける(変更なし)	

表3 板橋区・MRワクチン任意接種助成制度の内容【新設】

対象者	第1期及び第2期、又は両方の定期接種が完了していない者で、接種日現在、板橋区に住民登録のある者
助成回数	1人2回まで
年齢	2歳～19歳未満(2期接種期間を除く)
接種費用	麻しん風しん混合ワクチン 1,000円 麻しん/風しん単抗原ワクチン 各500円
接種場所	板橋区内の指定医療機関
備考	事前に区予防対策課へ連絡の上予防対策課窓口で手続きが必要

表4 板橋区・B型肝炎ワクチン4月～7月生児への延長措置

対象者	2016年4月1日～7月31日生まれの子
助成回数	1人1回まで
延長期間	2017年4月1日～7月31日まで
備考	事前に区予防対策課へ連絡の上予防対策課窓口で手続きが必要

同じく任意接種助成制度のない港区に対して、協会は2月20日に陳情書を提出し、各党派へ趣旨説明を行った。区議会でも複数の議員から質問が上がったが、現時点で区として制度導入の動きは見られない。港区は麻しん風しん接種率が1期、期ともに都内最下位の水準であるうえ、人口流動が激しく、外国人の流入も多い。23区で唯一任意接種助成制度を持たない区となったことも踏まえ、協会は引き続き制度設置を求めよう。

東京都は麻しん・風しん対策として、MRワクチン未接種児への任意接種助成事業を取り組む区市町村にあるが、住民は自己負担を

「1回分のみ助成」としていたため、現在実施中の21区中、最も要件の厳しいことが協会の調査で明らかとなった(表1)。

現行制度のままでは懸念される2期接種漏れに対応できないことから、協会では、区議会議員へ要望を

「1回分のみ助成」としていたため、現在実施中の21区中、最も要件の厳しいことが協会の調査で明らかとなった(表1)。

同じく任意接種助成制度のない港区に対して、協会は2月20日に陳情書を提出し、各党派へ趣旨説明を行った。区議会でも複数の議員から質問が上がったが、現時点で区として制度導入の動きは見られない。港区は麻しん風しん接種率が1期、期ともに都内最下位の水準であるうえ、人口流動が激しく、外国人の流入も多い。23区で唯一任意接種助成制度を持たない区となったことも踏まえ、協会は引き続き制度設置を求めよう。

2期接種漏れの懸念  
経費の半額を補助してきた。23区では2016年度新たに新宿区、品川区、大田区、台東区で開始され、21区が同制度を実施している。

足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者

は対象者の拡充と助成回数を最大2回までとする」とを区議会議員へ要望。

医療現場の不足の実態と接種漏れに対する危機感が区へ伝わった結果といえる。

足立区 助成対象者・回数を拡充  
足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者

は対象者の拡充と助成回数を最大2回までとする」とを区議会議員へ要望。

医療現場の不足の実態と接種漏れに対する危機感が区へ伝わった結果といえる。

医療現場の不足の実態と接種漏れに対する危機感が区へ伝わった結果といえる。

2期接種漏れの懸念  
経費の半額を補助してきた。23区では2016年度新たに新宿区、品川区、大田区、台東区で開始され、21区が同制度を実施している。

足立区では2009年度からいち早く任意接種助成制度を取り組んでいたにもかかわらず、対象者を「1回も接種したことがない者

は対象者の拡充と助成回数を最大2回までとする」とを区議会議員へ要望。

医療現場の不足の実態と接種漏れに対する危機感が区へ伝わった結果といえる。

本紙12月25日号でも報告の通り、昨年11月に協会が実施した会員アンケートでは、都内7割の小児科・内科の医療機関でMRワクチンが不足し、定期接種を打ち終えない可能性が5割にのぼる事態となった。協会は国に対して定期接種(特に2期)の延長措置や安定した流通体制の確保を求め、一方、自治体に対しては未接種児へのフォローアップ制度の早期導入・拡充を要望。来年度から足立区が対象者、回数を拡充、板橋区が新たに助成制度を開始するなど、一定の成果を得ることができた。

長谷川たかこ区議(民進党)が平成29年1回足立区議会定例会代表質問、平成29年予算特別委員会等で3度にわたり取り上げ、区医師会からも要望書が提出された結果、区長指示で見直しが決まった。これを受けて3月14日の厚生委員会にて、協会の要望どおり、対象者の拡充と最大2回までの助成が実現した(表2)。

同議員によると予算措置が必要な施策を、議員提案でこれだけ短期間に通すことは極めて珍しいという。

この記事はホームページでも公開しています。

スマホの方はこちらから⇒

<http://www.hokeni.org/docs/2017032700028/>